

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

4月17日に全国の小中学校で、一斉に実施されました学力・学習状況調査の結果の分析と、今後の小中学校の取組についてお知らせします。

1 学力に関して

<小学校>

国語では、『A主として知識』の「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、『B主として活用』の「話すこと・聞くこと」「書くこと」について、県や全国よりも高い平均正答率でした。また、『B主として活用』の記述式の問題形式において、目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことに課題が見られました。算数では、『B主として活用』の「数量関係」について、県や全国よりも高い平均正答率でした。また、『B主として活用』の「数と計算」「量と測定」の記述式の問題形式において、示された数値を関連付け根拠を明確にして記述できることに課題が見られました。理科では、『主として知識』『主として活用』とも、県や全国と同程度の平均正答率でした。また、より妥当な考えをつくりだすために、複数の情報を関連付けながら、分析して考察できることに課題が見られました。

<中学校>

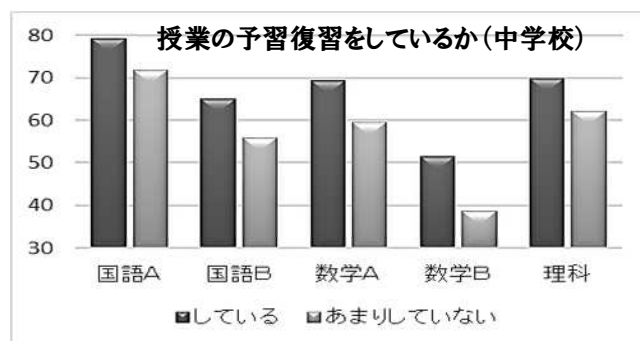
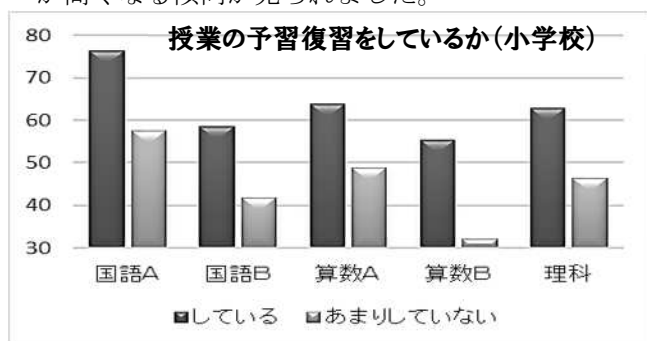
国語では、『A主として知識』の全ての領域、『B主として活用』の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」について、県や全国よりも高い平均正答率でした。また、『B主として活用』の「言語についての知識・理解・技能」において、相手に的確に伝えるようにあらすじを捉えて書くことに課題が見られました。数学では、『A主として知識』の「数と式」、『B主として活用』の「図形」について、全国よりも高い平均正答率でした。特に、『B主として活用』の「数と式」において事柄が成立する理由を、構想を立てて説明することができることや、「資料の活用」の与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することができることに課題が見られました。理科では、『主として知識』『主として活用』とも、県や全国と同程度かやや高い平均正答率でした。また、オームの法則を使って抵抗を求めることや、記述式の問題形式の植物を入れた容器の中の湿度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できることに課題が見られました。

今年度は、理科の調査が行われたわけですが、観察や実験を行った際に、その結果をもとに自分なりの考察をしている児童生徒の正答率が全ての教科で高くなっていました。また、公式やきまりを学ぶときに、その根拠を理解しようとしたり、発表するとき話の組み立てを工夫したりするといった、安易に答えを求めるだけでなく、論理的な考え方を身に付けようとしている児童生徒の方が、正答率が高くなっていました。

2 家庭での学習習慣・学校生活の振り返り状況について

- ・平日、学校の授業時間以外での学習時間は、小学生の約75%が1時間以上、中学生の約37%が2時間以上となっています。
- ・小学生の約98%、中学生の約85.7%が、家で学校の宿題をしています。
- ・小学生の約83%、中学生の約75.6%が、家で学校の授業の予習復習をしています。

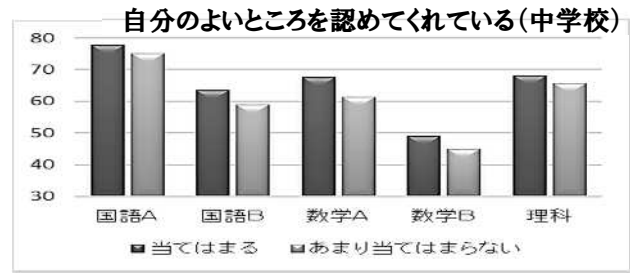
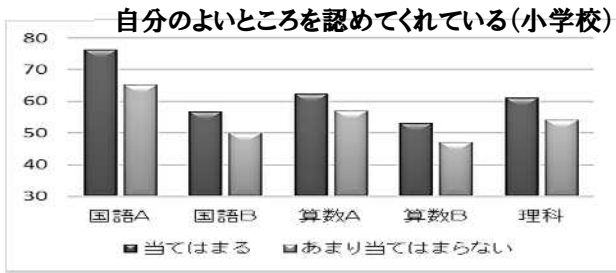
次のグラフのように、宿題を確実に行ったうえで、家庭で予習復習をする習慣をつけた児童生徒が、正答率が高くなる傾向が見られました。



3 意識・自己肯定感等の状況について

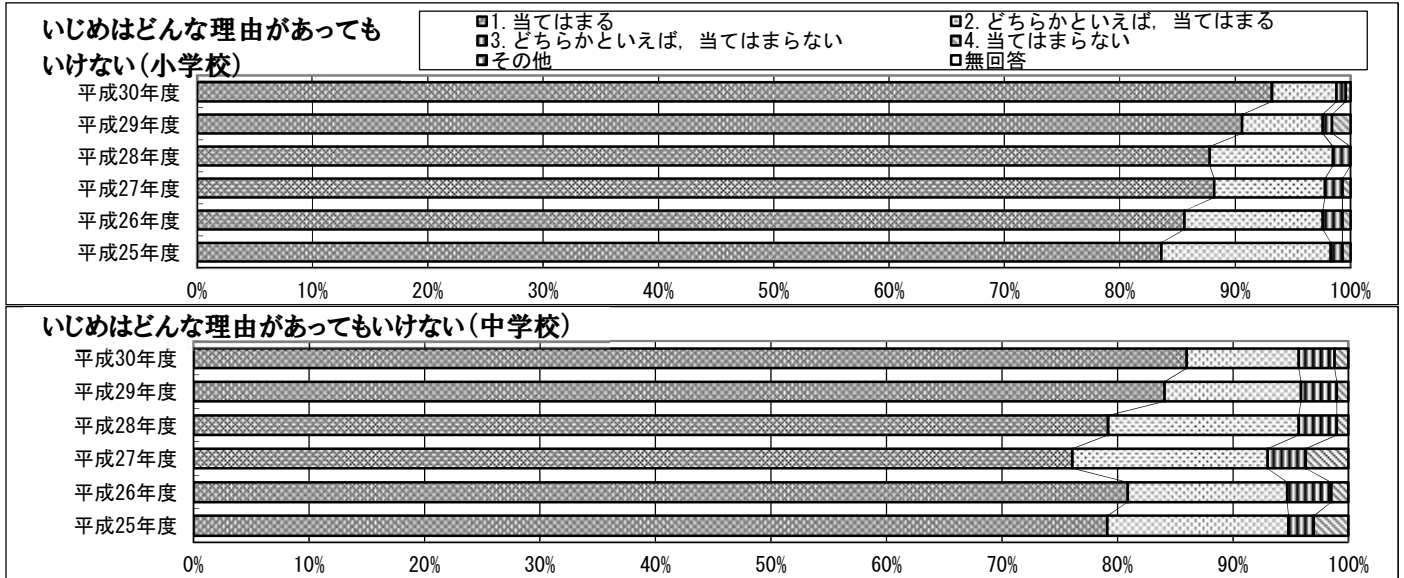
- ・小学生の約89%、中学生の約73%が、将来の夢や目標をもっています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。
- ・小学生の約89%、中学生の約76%が、自分にはよいところがあると思っています。どちらも、県や国の平均と比べ同程度か、やや高くなっています。

養老町内の全小中学校では、「よいこと見つけ」を継続して行っています。自分の周りの人から、「自分のよさ」を認められていると感じている児童生徒は、正答率が高くなっています。



- 小学生の約99%、中学生の約96%が、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思っています。どちらも、県や国の平均よりも高くなっています。

平成25年度からの経年推移を見ると、「いじめはどんな理由があってもいけないこと」だと思っている児童生徒が、かなり増加してきています。



4 基本的な生活習慣や規範意識の状況について

- 昨年度と同様に、町内のほとんどの児童生徒が、毎日の起床時刻がほぼ一定で、毎日朝食を摂っています。就寝時刻にばらつきがある傾向がみられました。
- 小学生の約91%、中学生の約80%が地域の行事に参加しており、県や全国の平均を大きく上回っています。
- 小学生の約92%、中学生の約96%が、学校の決まりや規則を守っているという意識をもっています。どちらも、県や国の平均と比べ同程度か、やや高くなっています。

5 町全体として大切にしていきたい取組

- 各小中学校で実践している「〇〇学校の授業はこれだ！」を推進し、習得の場と活用を明確にしつつ、主体的・対話的で深い学びの実現に取り組み、その授業の中で児童生徒自身が伸びを実感できる授業を目指し、さらに改善していきます。
- 宿題や自学自習の在り方を工夫し、授業が核となる予習復習が行える家庭学習をさらに充実させていきます。毎日、計画的に学習する習慣作りに努めます。
- 「よさ見つけ」を友達、教職員だけでなく、保護者、地域の皆様からの協力を得て、さらに児童生徒の自己肯定感を高め、自分や周囲の方を大切にできる心情を育てていきます。
- 小学校では、読書好きな児童生徒がやや増加しましたが5年間の推移を見ると、小中学校ともやや減少傾向です。また、新聞を毎日読む児童生徒は約10パーセントで、半数以上が読んでいません。どちらも、学力調査では、読書好きな児童生徒のほうが、国語だけでなく数学や理科においても平均正答率が高くなっています。日常的に活字に触れる読書指導を進めていきます。
- 休日になると、ゲームやインターネット、テレビなどの使用が、長時間になる傾向が見られます。ゲーム・スマートフォン依存症にならないよう、「情報モラルスマイル宣言」をもとに情報モラルの指導や、保護者と協力した家庭でのルール作りなどを続けていきます。
- 町内全小中学校でコミュニティ・スクールが実施され、地域の方から学んだり、一緒に活動したり機会が増えました。地域の方からは、将来の夢や希望の実現に関わって講話などもいただいています。将来の夢や目標を持っている児童生徒は、どの教科においても平均正答率が高くなっています。これからも、地域の中での学校として、地域の方と共に取り組んでいきます。